

「思い込みから解放された！」テーマに イエス様の助手席に座って LIGHT Project 信仰と仕事セミナー

LIGHT Project 信仰と仕事セミナー

署にいます。吸収合併、4回の社名変更を経て、今では業界大手の会社。高卒の私ではとても入れない会社で、奇跡と同じ時に正直ついでいくのがやっと。プレッシャーと不安の日々だった」

「仕事はつらく苦しいものと思っていた。次から次へと業務が増え、新たな課題や問題が起きる中で、うまくやらなければと思っていた。忙しくて疲れていても、仕事を成功させるため自分を犠牲にして働かないといけない。そんな間違っ

た情熱により仕事に振り回されていた」 そんな時、「LIGHT Project」の学びに導かれた」と言う。「学びを通し、自分が二元的で日曜日と平日を分けて考えていたこと、神様を第一にし、より頼むことができなかったことを悔い改めた。今

はイエス様に重荷を委ね、イエス様が運転する車の助手席に座って働くように心掛けています。休日も、イエス様が助けてくださると信じ、休むようにしている」と語った。



塚本博希さん
「悪循環に陥っていた」



坂下貴子さん
「思い込み(偶像)は、求めても安心感を与えない。」

二人目は塚本博希さん(アッセンブリー・御影神愛キリスト教会員)。アプリケーションエンジニアとしてIT企業で4年間働き、現在は夜間の神学校で学ぶ。塚本さんは、学びを通して自分の思い込みに気づかされたと言う。「仕事は本来、生きる上での喜びの源は、お金のために働くのは汚いというイメージがあった。にもかかわらず、それが現実と

思っていていた。お金がなくなることを恐れている自分がいることに気づいた。働くことはいいことなのに、その恐れからのプレッシャーで働くという悪循環に陥っていた」

「思い当たる思い込みがあるか」などのテーマについて、いくつかのグループに分れてディスカッションした。参加者からは、「自分も、仕事をしているから生活がある、みたいな思い込みがある。神様を信頼し切れていないところが、自分の偶像なんだと気づかされた」などの声がかかれた。

最初のスピーカーは坂下貴子さん(亀有教会員)。仕事は不動産管理業で、マンションの管理会社の事務職で働く。勤続33年目だ。「今は本社勤務で、全国の支店をまとめる部

◆ ◆